

# 近畿中国局フォレスターNEWS

## 森 林総合監理士会を設立（奈良県）



奈良県森林総合監理士会設立総会

8月6日、奈良県内在住の森林総合監理士資格取得者7名により、会員相互の連絡と協力で、奈良県における森林総合監理士の地位の向上と森林総合監理士制度の発展を図り、合わせて奈良県地域の森林の保全と林業の振興に寄与することを目的に奈良県森林総合監理士会が設立されました。設立総会では、近畿中国森林管理局合田次長並びに奈良県熊澤林業振興課長からの祝辞が行われ、会規約、役員、今後の運営方針及び平成28年度事業計画が承認されました。その後、奈良森林管理事務所の片山所長から、激励の挨拶がありました。設立総会の役員選出では、初代会長に奈良県林業基金事務局長の杉本和也氏が選出されました。

今後の運営方針として、①研修会への参加、会独自の学習会の開催、②地域の林業人材(プランナー等)との交流意見交換会の開催、③林業人材育成にかかる講師等の派遣を計画しています。

今後、近畿中国森林管理局、奈良森林管理事務所は、奈良県内の森林総合監理士と情報共有及び情報交換を行って、連携した取組を進めていきます。

## 技 術者育成研修を開講（近畿中国森林管理局）

林野庁では、将来の森林総合監理士となる候補者を育成するための技術者育成研修を実施しています。技術者育成研修には、「中央研修」と各森林管理局が担当する「ブロック研修」があります。

近畿中国森林管理局では、ブロック研修を8月23日～26日の4日間の日程で、岡山県新見市において開催し、府県、国有林、民間企業の職員が20名受講しました。

受講生は、中央研修で習得した知識・技術を再確認し、現地実習を通じて、公益的機能を踏まえた森づくり構想、広域的な視点からの資源循環利用構想を検討する演習を行いました。

研修最終日は、班ごとに資源循環利用構想(新見市干子地区の林業ビジョン)について取りまとめ、発表を行いました。

受講生からは、「ビッターリッヒ法(親指を立てて係数を掛けha当たりの胸高断面積を算出する方法)をもっと知りたい。体を使って計測することが出来れば、現地で感覚的に林況を把握する感覚が養われると思う。」、「図面と現地がかなり異なっていて、現地を見ることは重要だと感じた。」、「森づくり構想の発表後、講師から、土地が肥沃であれば主林木の平均樹高やha当たり材積等も悪い数値として表れないと言われ、樹木も土地も一つの空間として形成されているため矛盾するような説明をしてはいけなかった。」等の意見がありました。

(ブロック研修については、当局のホームページをご覧ください。)



森づくり構想 現地実習



資源循環利用構想 集合写真

## 市 への技術的援助に向けた取組 (滋賀県)



シカ捕獲現場 (奥伊吹スキー場)



シカ捕獲用の囲い罠 (同上)

※重点取組地区とは、府県と署等の森林総合監理士(フォレスター)等が連携して、技術的援助やその他の必要な協力を重点的に行うために設定した市町村のことをいう。こうした市町村への技術的援助等をフォレスター活動という。

滋賀森林管理署は滋賀県と打合せを実施してきた結果、重点取組地区を米原市としました。こうした中、滋賀県、米原市、滋賀署は、8月26日の午前に奥伊吹スキー場のニホンジカの捕獲現場を視察し、午後に米原市役所伊吹庁舎で意見交換を行いました。

ニホンジカの捕獲現場では滋賀署から、現在捕獲のため設置しているカウントゲートシステム付き囲い罠の特性について説明しました。米原市からは、餌に誘引されている群れを丸ごと捕獲しシカをつくらないことが重要であるという意見がありました。

午後から伊吹庁舎会議室に移動し、滋賀署から、①ニホンジカの捕獲、②国有林の地図情報等の提供、③平成28年度局重点取組事項等について情報提供しました。ニホンジカの捕獲に関して、囲い罠を用いた餌による誘引捕獲は、①捕獲後に再誘引するには期間が相当程度かかる、②囲い罠を大きくしても誘引されたシカの全てを捕獲することは難しいとの意見があり、これらの課題に対する対策を今後検討していくこととしました。国有林の地図情報等の提供に関しては、滋賀署で試作した民国共通図面を配布し、米原市内の国有林の施業予定等を米原市に情報提供することとし、民国連携した取組を今後実施していくことにより、米原市の林業振興に貢献したいと説明しました。滋賀署は今後も民国の連携を強化し、より地域に貢献する取組となるよう継続した取組を進めます。

## 2000本植栽育林技術体系の普及研修会を開催 (広島県)

8月30日、広島県、神石高原町、広島森林管理署、広島北部森林管理署共催で、森林資源の循環利用に向けた低コスト施業技術の導入を目的に、「2000本植栽育林技術体系の普及研修会」を開催しました。

当日は、広島県内の森林組合、県の農林水産事務所のほか、近隣の山口県、島根県からも参加があり、合計97名の出席がありました。

まず、神石高原町の坂瀬川区民会館に集合し、広島県から再造林コスト低減等の取組状況についての報告があり、その後、二班に分かれて机上演習と現地研修を実施しました。

机上演習では、広島県から2000本植栽育林技術体系の導入について説明を受けた後、目標林型早見表を利用して将来目指すべき林分へ導く演習を行いました。また、現地研修では、広島署の府中森林事務所首席森林官が、新元重山国有林(福山市)の低密度植栽試験地の林況及び施業履歴等について説明を行い、植栽本数の違いによる林分を確認しました。最後に、区民会館において、広島署のフォレスターから「低植栽密度で造成されたスギ・ヒノキの標準伐期齢を超えた林分の林分構造及び材質の調査結果」について報告を行い、低密度で植栽しても材質等には影響がないことなどの説明を行いました。

この普及研修会は、ケーススタディ地区での取組の一環で、広島署、広島北部署は、引き続き広島県、神石高原町と連携した取組を進めていきます。



現地研修 新元重山国有林



広島署フォレスターの説明

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

### 編集後記

8月に技術者育成研修近畿中国ブロック研修が行われました。この研修が20名の受講生にとって将来の森林総合監理士となるためのきっかけとなり、森林総合監理士となって地域の森林づくりや市町村への技術的支援を民国連携してリードしていただければと思います。

受講生の皆様の今後のご活躍を祈念いたします。